

【実践報告】

看護学生が地域で活動するという意味

地域住民からの聞き取り活動を通して

地域住民健康教育プログラム実践報告②

阿部 誠人, 田中 健太郎, 瀬瀬 朋弥, 小林 和成, 松波 美紀
岐阜大学医学部看護学科

要旨

岐阜大学医学部看護学科では、平成 28 年度から社会貢献部会を発足し、岐阜県の看護職の定着化、看護の質の向上に向け活動している。本論は、社会貢献部会のプログラムの 1 つである「地域住民健康教育プログラム」における実践報告である。今回本プログラムを通して、看護学生が地域で活動できる場について、本学科の学生が地域で主体的に聞き取り活動を行った。結果、199 名の協力が得られ、地域行事に参加して高齢者や子どもとの交流を深めて欲しいなどの地域住民の意見を把握することができ、今後の活動の示唆を得た。今後これらの活動の場で、看護学生が地域住民と協働して地域活動に参画し、本学科での学びを活かした活動を展開していく必要があると考える。

キーワード：地域住民，看護学生，社会活動

1. はじめに

岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会について

社会の高齢化、医療の高度化・専門化に伴い、看護職の需要は増大しており、全国的にも看護系大学は増加している。岐阜県でも看護系大学の開設が続いているが、岐阜県内の看護職の定着率は伸び悩み、看護職の確保、定着は大きな課題となっている。

そこで岐阜大学医学部看護学科は平成 28 年度より、岐阜県から「岐阜県看護学生等県内定着促進事業費補助」の交付、活動支援を得て、「社会貢献部会」を発足し、岐阜県内の看護職の定着化、看護の質の向上に向け活動している。社会貢献部会は、教員と学生による部会の活動であり、5 つのプログラム（卒業生支援プログラム、専門職を磨くプログラム、高大連携プログラム、看護研究研修プログラム、地域住民健康教育プログラム）を展開してい

る¹⁾。各プログラムの中では、本学科ならではの強み、魅力を地域社会に発信するために、教員と共に学生が主体的に社会貢献を実施するための取り組みが行われてきた。

看護学生の地域活動推進について

本学科のディプロマポリシーの1つとして、「変化する保健・医療・福祉システムの中で、チーム医療を担う一員として、他職種の役割を理解し、協働的關係を築き調整する能力」があり、そのような能力を備えた高度な専門職業人を育成することが本学科の責務である。今後、高齢化と人口減少が更に進み、2025年には団塊世代が65歳を超え、国民の3人に1人が65歳以上という、いまだかつて経験したことのない超高齢社会を迎える。その中で国は急速に地域包括ケアシステムの構築・強化を進めており、地域完結型の医療システムや介護予防対策が重要視されている。本学科の学生は、卒業後、急性期病床、回復期病床、在宅、地域保健など活躍する場は様々であるが、どの分野においても地域ネットワークの中で看護職として他職種と協働し、地域連携を促進する役割が求められる。従って、学生が地域住民との交流や活動を通して、看護専門職が社会から求められる役割や責務を学生時代から認識し、考えていくことが重要である。また、それらの地域活動の実践は、地域に根差す看護専門職の育成に効果があると考えられる。

しかし、地域住民は看護学生が実際に地域で活動することに対してどう思っているのか、どのような活動をして欲しいと思っているのかなど、看護学生の地域活動を推進するにあたり、地域住民のニーズを把握できていない現状があった。そこで今回、そのような地域住民のニーズを把握するために学生が地域で聞き取り活動を行うに至った。

今回の実践報告について

今回我々は、地域住民を対象に実施している「地域住民健康教育プログラム」についての報告を行う。本プログラムの目的は、地域住民と看護学科の教員・学生間の交流を通し、地域住民から看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生自身が社会における看護職の役割を認識し、社会貢献をする上で目指すべき看護職としての姿を考えることである。また、本学科が有する人材や教育研究活動の成果などを個人・集団・コミュニティなどに活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充などに寄与することもプログラムの目的の1つとしている。

本プログラムの活動の一環として、看護学生が実際に地域に出て、主体的に地域住民と関わり、聞き取り活動を行った。「地域住民健康教育プログラム実践報告①」では、その活動の中で得られた看護学生への期待や励ましなどの住民の声、活動に参加して得られた学生の学びについて報告した。「地域住民健康教育プログラム実践報告②」では、看護学生が地域で社会貢献をしていく上で、地域住民は看護学生にどのような活動内容や活動の場を求めているのか、その意見を聴くことができたため報告を行う。

2. 実践内容

平成30年3月2日金曜日、JR岐阜駅前で高校生以上の地域住民を対象に、基本属性（性別、年齢、職業、居住地域、居住年数など）と「看護学生が地域で活動できる場」や「看護学生に期待すること」などの内容について、学生が中心となって聞き取り活動を行った（「看護学生に期待すること」についての内容は、実践報告①参照）。今回の活動に参加した学生は、1年次生1名、2年次生1名、3年次生6名の計8名であり、教員4名も学生のサポート役として当日参加した。

13時から17時までの約4時間の聞き取り活動を実施し、計199名の地域住民の方からの回答が得られた。回答が得られた地域住民の基本属性は表1の通りであり、学生が地域活動を行うことに対する住民の意見を表2、表3、看護学生が地域で活動する場については表4の通りに示した。

回答が得られた地域住民の方々の基本属性として、年齢区分は、60歳代以上が約40%を占め、20歳代以下が約36%、30歳代～50歳代が約24%となっていた。職業は働いていない方が約32%、学生が約29%、パート・アルバイトが約15%、会社員が約12%の順に多かった。回答者のうち岐阜市内在住の方は全体の約66%であり、その中で居住年数が10年以上の方は約77%であった。

また、地域住民の約8割が、学生が地域で積極的に活動することに対し「良い」と回答していた。学生が地域で活動を行うことに対する住民の意見には、地域の活性化や発展につながるという意見や、若者の力、意見が地域社会に反映されることを期待するなどの声が聴かれた。

地域住民の方々からの回答内容より、看護学生が地域で活動できる場や活動内容を検討したところ、高齢者や子供との交流、地域行事への参加・企画などに関する活動を期待する「人との交流」、高齢者支援、障害者支援、子育て支援や学習支援などに関する活動を期待する「人に対するサービス提供・支援」、専門性を活かした活動、まちづくりや地域の活性化、環境保全や自然保護、防災・災害・安全に関する活動を期待する「テーマに沿った活動」、 「その他」に分類することができた。その中でも、「人との交流」に関する活動を期待する住民の意見が最も多く、地域の行事（お祭り、運動会など）、イベントに積極的に参加して欲しいなどの声や、地域行事への参加を通して、高齢者や子供を始めとした地域住民との交流を求める声が多く聴かれた。看護学科、看護学生としての専門性を活かした地域活動としては、医療に関する最新の情報提供を希望する声や、高校生からは看護学科でどのようなことを学んでいるのか伝えて欲しいなどの意見もあった。

看護学生が地域で活動するという意味
：地域住民からの聞き取り活動を通して地域住民健康教育プログラム実践報告

表1. 対象者の基本属性 (有効回答者数 n = 192)

		n	%			n	%	
性別	男性	73	38.2	職業 ^{※1}	会社員	22	11.5	
	女性	118	61.8		公務員	3	1.6	
年齢区分	20歳未満	43	22.4		団体職員	5	2.6	
	20歳代	26	13.5		自営業	8	4.2	
	30歳代	16	8.3		学生	55	28.6	
	40歳代	18	9.4		パートアルバイト	28	14.6	
	50歳代	11	5.7		働いていない	62	32.3	
	60歳代	28	14.6		その他	10	5.2	
	70歳代	36	18.8		居住地域	岐阜市	125	65.8
	80歳代	14	7.3			岐阜市以外	65	34.2
				居住年数 ^{※2}		5年未満	23	18.6
					5年以上10年未満	5	4	
					10年以上	96	77.4	

※1 複数回答あり

※2 岐阜市在住者のみに聞き取り

表2. 学生が地域で積極的に活動することについてどのように思うか

(n = 183)

	n	%
良い	152	83.1
よくない	2	1.1
わからない	29	15.8

表3. 学生が地域活動を行うことに対する住民の意見

- ・地域が活性化する気がする
- ・地域の活動が活発になる
- ・地域の発展へとつながると思う
- ・活気が出て新しい吸収ができる
- ・若い力が地域に活力をもたらす
- ・若者の意見が取り入れられる
- ・若い人が活動しているのをあまり見たことないから
- ・優しく接する態度
- ・社会のしがらみを知る

表4. 看護学生が地域で活動できる場

活動の種類	活動対象	地域住民の意見（記載内容）
人との交流	<高齢者との交流>	高齢者との交流・触れ合い ひとり身の方の話し相手になる 高齢者に対するボランティア（お年寄りと話すとかが） 世代間の交流により高齢者は孤独がまぎれ、大学生は社会を知る機会の創出につながり双方にとってメリットがあると感じます
	<子供との交流>	小学校の子と遊んだり学習したりすること 小学生と何か一緒にする 子供との交流、子供たちと遊んでほしい 小学生や中学生との触れ合い、小中学校に関わって欲しい 子供の目を引くような活動、教育につながるものが良い
	<地域行事への参加・企画>	地域の行事と一緒にやる 地域行事を把握して、イベントに学生が参加するのが良い イベントで交流を図る 地域での祭りやイベントへの参加 お祭りなど、子供を楽しませる活動 小学生との触れ合い祭りへの参加 子供会への参加 子供や高齢者に対するイベント 地域の学園祭・文化祭への参加 学園祭を外でやる 商店街の活性化イベント 広場で発表会 地域に密着した活動 学科によって異なるが、町民運動会、健康相談など自然な活動が良い
人に対するサービス提供・支援	<高齢者・障害者への支援>	介護または介助 高齢者への健康支援 高齢者、障害者、弱者にかかわる活動・支援
	<子育て・学習支援>	子育て支援 勉強を教えてもらう、子どもへの学習支援 子供たちに色々教えて頂けるのではないのでしょうか
テーマに沿った活動	<専門性を活かした活動>	医学活動 医療に関する交流 最新の知識を聞く機会があるとよい 学生が進路について考えられる、専門や関心を生かし交流できる活動 学ぶ内容を知りたい 健康維持ができる
	<まちづくり・地域の活性化>	高齢者と関わり安心して住める社会づくり 街づくり 地域のPR JR岐阜駅の活気を戻して欲しい 学生が地域活性化のための支援活動をして欲しい 地域の活動・ボランティア
	<環境保全・自然保護>	クリーン活動 地域に学ぶ、山河 地域の清掃
	<防災・災害・安全>	交通安全 地域防災に参加、地域高齢者への声かけ 治安を良くすること
その他		社会貢献 地域の役に立つこと、人のためになること 食育を広げる

3. まとめ

今回の取り組みでは、学生が地域で主体的に聞き取り活動を実施し、地域住民の生の声を聴くことができた。得られた情報は、看護学生がどのような場でどのような活動を実施すれば、地域住民のニーズに合った健康教育や社会貢献ができるかが示唆されるものであった。

学生が地域で活動することに対し、聞き取り活動に協力が得られた住民の意見では、約8割の方が「良い」と回答していた。地域住民は、看護学生の積極的な地域活動への参加を期待しており、若い力が地域社会の活性化、発展につながるとの意見もあった。学生自身がこれらの住民の生の声を聴くことは、看護学生・看護専門職として社会から何を求められているのかを知り、どのように成長していくべきか考えるきっかけとなり、有益な経験であったと考える。

また、地域での活動内容については、高齢者や子どもとの交流、運動会やお祭り、子供会など、地域の各種行事への参加・企画や、高齢者や障害者に対する介護や介助、健康支援など、幅広い年代層、健康レベルに対する支援を求める意見があった。これらの意見より、地域行事の機会を利用して、地域住民と看護学科・看護学生との交流や健康支援の方法について検討することが必要であると考えられた。

さらに、医療に対する最新の情報提供を求める意見や、高校生からは看護学生として大学でどのようなことを学んでいるのかを伝えて欲しいなど、看護学科・看護学生としての専門性を活かした活動を期待する意見もあった。今後、中高生が看護職への道を進路の選択肢の一つとして考えてもらうために、看護学生が自ら、本学科での学びや活動に関する情報提供をする機会を設けることは重要な社会貢献であり、それは将来の看護職員の確保にもつながっていくと考えられた。

平成30年度の岐阜県の年齢別人口推計²⁾によると、65歳以上の高齢者は全人口の約3割と推定されているが、2025年問題を背景に、岐阜県の高齢化も更に進んでいくことが予測される。そのような中、地域医療の重要性が増し、看護職の役割拡大が求められている。また、日本看護系大学協議会が提唱する「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」³⁾では、コアコンピテンシーの1つとして「地域ケア体制の構築と看護機能の充実を図る能力」を位置づけ、地域の人々や地域組織活動について理解し、地域ケア体制を作り、その中で看護機能を発揮できる能力を持つ人材を輩出することが責務となっている。前述した通り、地域住民が期待する看護学生が活動できる場の多くは、地域行事などへの参画を通じた人との交流であった。この地域住民の意見を知り、教員も本学科の学生教育の場を更に地域に拡大していくことが求められていると再認識することが出来た。学生時代から地域の活動の場に積極的に参画し、地域に根差した活動をすることで、看護職として大切な、対象を理解する能力や地域住民の健康課題を把握する能力、地域の人々と協働した課題解決や目標を達成する能力などが養われると考える。また、現代の学生は核家族化に伴い、世代間交流の機会が少ない現状がある。このような中、地域住民との交流は学生のコミ

コミュニケーション能力の向上や、身内以外の他者との関わり方を身に付けていく上で有効である。さらに、学生が地域に出て活動すること自体が地域の活性化、社会貢献につながると言う地域住民の意見を確認できた。これは、学生が自ら活動の意義を感じ、主体的な社会活動を実践してくための意欲につながったのではないかと考えられる。

本プログラムにおける今後の取り組み課題として、学生が本学科での学びを活かした活動や、学生が地域活動の中に参画し、地域住民と協働してプロジェクトを実施できる機会の提供やプログラムの構築が必要である。

また、今回の取り組みでは、協力者は高齢者や20歳代以下の若者世代が多く、30歳代から40歳代などの子育て世代の意見が少なかったため、全世代の地域住民のニーズの把握までには至らなかった。今後の活動を展開する中で情報収集を続け、学生が活動できる場を広げ、専門職として、社会人として地域に貢献できる人材を育成できるよう、看護学科と地域社会が協働した活動をしていく必要があると考える。

本活動は、平成28年度、平成29年度岐阜県看護学生等県内定着促進事業費補助金ならびに平成29年度岐阜大学活性化経費（地域）の支援を受けて実施された。

【謝辞】

ご支援くださった岐阜県および関係部署の皆様、お忙しい中聞き取り活動にご協力くださった地域住民の皆様に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 看護職輝き輝き（イキイキ）プロジェクト 平成29年度 岐阜大学医学部看護学科活動報告 社会貢献部会
- 2) 岐阜県の年齢別推計人口(平成30年4月1日現在), 岐阜県公式ホームページ
<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/tokei/tokeijoho/11111/kohyoshiryo/jinko/jinko-setaisu/2018/> 最終閲覧日 2018年7月18日
- 3) 上泉和子(2018)「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標」報告書, 一般社団法人 日本看護系大学協議会